

スウェーデン放送合唱団

広上淳一 指揮 京都市交響楽団 第10回 名古屋公演



©Enrico Nawrath



©Clive Barda



©Joseph Ford Thompson

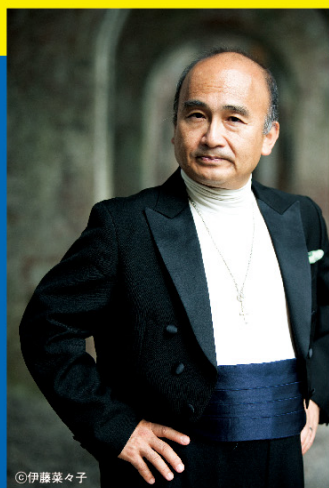


世界最高峰の合唱団による

2大レクイエム×広上 & 京響

フォーレ：レクイエム ニ短調 op.48 モーツァルト：レクイエム ニ短調 K.626

指揮 / 広上 淳一
(京響常任指揮者兼ミュージック・アドバイザー)
独唱 / シルヴィア・シュヴァルツ(ソプラノ)
ペサン・ラングフォード(メゾソプラノ)
オリヴァー・ジョンストン(テノール)
ミラン・シリャノフ(バリトン)
合唱 / スウェーデン放送合唱団
管弦楽 / 京都市交響楽団



©伊藤菜々子



今日、京響？

2019

11.24

日

16:00開演
(15:15開場)

愛知県芸術劇場コンサートホール

S席 13,000円 A席 11,000円 B席 9,000円
C席 7,000円 D席 5,000円 U25 2,000円 (全席指定・税込)

※未就学児のご入場はお断りいたします。※やむを得ない事情により、出演者、曲目、曲順などが変更になる場合がございます。その場合もチケットの払い戻しは承れません。ご了承ください。
※車椅子席でご来場されるお客様はご購入前に必ずクラシック名古屋までお問い合わせください。※U25は、クラシック名古屋(電話)のみ取り扱い。25歳以下、来場時に年齢確認有。お一人様1枚限り。

主催：東海テレビ放送・(公財)京都市音楽芸術文化振興財団・京都市 協力：クラシック名古屋

【公演のお問合わせ】東海テレビ放送 事業部 052-954-1107 (平日10:00~18:00)

【チケットのお問合わせ】東海テレビチケットセンター 052-951-9104 (平日10:00~18:00) クラシック名古屋 052-678-5310

プレイ
ガイド

- 東海テレビチケットセンター 052-951-9104 (平日10:00~18:00) tokai-tv.com
- アイ・チケット 0570-00-5310 clanago.com/i-ticket
- チケットぴあ 0570-02-9999(Pコード:134-118)
- ローソンチケット 0570-084-004(Lコード:41055) 0570-000-407 ※オペレーター対応
- 芸文プレイガイド 052-972-0430
- 栄プレチケ 052-953-0777
- e+(イープラス) eplus.jp
- 名鉄ホールチケットセンター 052-561-7755



第23回 スーパークラシックコンサート

スウェーデン放送合唱団 THE SWEDISH RADIO CHOIR

広上 淳一 指揮 京都市交響楽団 第10回 名古屋公演

スウェーデン放送合唱団

Swedish Radio Choir



1925年に創設。1952年、合唱の神様と称される大指揮者のエリック・エリクソンが首席指揮者に就任し、現在の形態となった。以来飛躍的發展を遂げ、世界のトップ・アンサンブルとしての地位を確立した。その後、アンデシオルウェル、グスタフ・ショークヴィストという巨匠たちに引き継がれ、

1994年よりエストニアの巨匠トスカ・カリユステが首席指揮者に就任。このスウェーデン放送合唱団にとって初の外国人指導者により、東欧圏のレパートリーの拡充がなされ、グレッツキ、シュニツケ等の録音で数多くの賞を受賞。またリゲティ、サントストレム、ペルト、ペンデレツキ等の現代の大家がこの合唱団のために作品を書いている。新鋭のペーター・ダイクストラが首席客演指揮者を3年間務めた後、2007年9月に音楽監督に就任。彼は、エリック・エリクソン、トスカ・カリユステという両巨頭の薫陶を受け、スウェーデン放送合唱団の伝統を承継した。録音も国際的に評価が高く、2014年にリリースした「ブラームス：カノン・ミサ、モテット集、祝辞と格言」は2015年エディソン賞に輝いた。2018年にダイクストラが退任してから、今シーズンは音楽監督をおかず活動している。これまでに、スウェーデン放送響、ベルリン・フィル、フィルハーモニア管、ミラノ・スカラ座フィル等のオーケストラと、ゲルギエフ、プロムシュテット、ムーティ等の指揮者と共演している。なかでも、アバド&ベルリン・フィルとは厚い信頼で結ばれ、1992年ブラームス「ドイツ・レクイエム」、1994年シューマン「ファウストからの情景」、1995年ストラヴィンスキー「エディプス王」、1996年ベートーヴェン「第九」等のレコーディングや、定期演奏会およびジルベスター・コンサート、ザルツブルク・イースター・フェスティバル等への出演など数多く行った。また1996年日本公演のベートーヴェンの「第九」、マーラーの「復活」でも空前の大絶賛を博した。2年連続でN響ベストソリスト賞を受賞。穢れなく完璧な歌声を響かせる世界最高峰の合唱団として、その名声は世界各国に轟いている。

広上 淳一 (京都市交響楽団常任指揮者兼ミュージック・アドバイザー)

Junichi Hirokami (Chief Conductor & Music Advisor of the Kyoto Symphony Orchestra)



東京生まれ。東京音楽大学指揮科に学ぶ。1984年、26歳で「第1回キリル・コンドラシン国際指揮者コンクール」に優勝し、国際的な活動を開始。1991～95年ノールショピング響首席指揮者、1991～2000年日本フィル正指揮者、1997～2001年ロイヤル・リヴァプール・フィル首席客演指揮者、1998～2000年リンブルク響首席指揮者、2006～08年米国コロナドス響音楽監督を歴任。近年では、ヴァンクーヴァー響、ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ響、バルセロナ響、モンテカルロ・フィル、サン・パウロ響、ニュージーランド響などへ客演。オペラ分野でも国内外で活躍し、シドニー歌劇場、新国立劇場などへ客演。2013年「第32回藤堂音楽賞」、2015年京響とともに「第46回サントリー音楽賞」、2016年「第36回有馬賞」受賞。東京音楽大学教授。京都市立芸術大学客員教授。2008年4月から京都市交響楽団第12代常任指揮者、2014年4月から第12代常任指揮者兼ミュージック・アドバイザーに就任。2017年4月からは札幌交響楽団友情客演指揮者も務める。

京都市交響楽団

Kyoto Symphony Orchestra



日本唯一の自治体直営オーケストラとして1956年創立。2008年4月第12代常任指揮者に広上淳一が就任。2014年4月から常任指揮者兼ミュージック・アドバイザーに広上淳一、常任首席客演指揮者に高関健、常任客演指揮者に下野竜也が就任。2015年広上淳一

とともに「第46回サントリー音楽賞」受賞。同年6月広上淳一指揮のもとヨーロッパ公演で成功を収め、2016年は創立60周年記念国内ツアーと京都市内で「ふらっとコンサート」を開催し、平成28年度地域文化功労者表彰を受ける。2017年4月からは下野竜也を常任首席客演指揮者に据えて広上・高関・下野による3人指揮者体制を確立し、文化芸術都市・京都にふさわしい「世界に誇れるオーケストラ」として更なる前進を図っている。

シルヴィア・シュヴァルツ (ソプラノ)

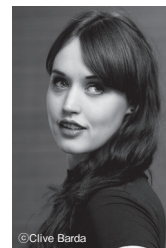
Sylvia Schwartz (Soprano)



スペイン生まれ。これまでに、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、バイエルン国立歌劇場、ベルリン国立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場をはじめとする主要歌劇場に登場し、クラウディオ・アバド、ダニエル・バレンボイム、サー・コリン・デイヴィス、ニコラス・アーノンクール、グスターボ・ドゥダメル、ファビオ・ルイーギ、フィリップ・ジョルダン、シャルル・デュトワ等の指揮者と共演している。またコンサートでは、サー・サイモン・ラトル指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団との共演のほか、アムステルダム・コンセルトヘボウやウィグモア・ホールをはじめ、世界中でリサイタルを行う。ザルツブルク音楽祭、ザルツブルク・モーツァルト週間、ヴェルビエ音楽祭、シュペルティアーデ・シュヴァルツェンベルク音楽祭、フレンツェ五月音楽祭、モーストリ・モーツァルト・フェスティバル等にも出演している。ハイペリオンから2013年にリリースしたソロ・デビュー・アルバム『カンシオーネス・エスパニョーラス ～ スペイン歌曲集』は、「一流のアーティストたる存在感を示している」(グラモフォン誌)、「ライジング・スターとの誉高いシルヴィア・シュヴァルツは、このデビュー・アルバムでその評判を確固たるものにした」(ガーディアン紙)と高評を得ている。

ベサン・ラングフォード (メゾソプラノ)

Bethan Langford (Mezzo-soprano)



イギリス生まれ。スコティッシュ・オペラの2018/19シーズンにおけるエマージング・アーティストとして、『魔笛』の侍女2、『カーチャ・カバノヴァー』のグラシーシャ、『リゴレット』のジョヴァナ、スチュワート・マクレイによる『人新世 (Anthropocene)』の世界初演におけるデージーの代役等で活躍している。ギルドホール音楽院とナショナル・オペラ・スタジオで学び、ベリー・コート・オペラで『コジ・ファン・トゥッテ』のドラベッラ役でデビュー。ジョージ・ベンジャミンの『リトゥン・オン・スキン』で第2の天使を演じた際には、セント・ルークスでのメロス・シンフォニアとの共演のほか、マリンスキー劇場・ヘツアーに同行した。また、ヴェルビエ音楽アカデミーではエサ=ベッカ・サラネンの指揮で『エレクトラ』の第3のメイドを演じた。コンサートでは、『メサイア』をグラナダ市管弦楽団と、『エリヤ』をアシュフォード合唱協会と、ラフマニノフの『晩祷』をセント・マーティン・イン・ザ・フィールズで歌った。これまでに、ウィグモア・ホール、オックスフォード・リダー・フェスティバル、オールドバラ音楽祭、ハイデルベルクの春音楽祭等に登場している。

オリヴァー・ジョンストン (テノール)

Oliver Johnston (Tenor)



英国王立音楽院で学ぶ。ガージントン・オペラで『インテルメッツォ』のシュトロウと『ファルスタッフ』のフェントンを、キリル・カラビッツ指揮ボーンマス交響楽団との『サロメ』ではナザレ人2を、英国王立音楽院では『5月の夜』のレフコを演じた。オールドバラ音楽祭に登場した際には『サロメ』のナラボートと『ピロー・パッド』の新米水夫を演じ、ボルドー国立歌劇場にはヘンドルの『メサイア』で、カンマアカデミー・ボツダムには『エリヤ』でデビューした。また、ウラディミール・ユロフスキ指揮ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団とはヴォーン・ウィリアムズの『音楽へのセレナード』で共演し、2016年のBBCプロムスには最終夜のプログラムでサカリ・オラモの指揮でデビューした。若いオペラ歌手のための全ロシア・ナジェジダ・オブホワ・コンクールで第3位を受賞。2016年ザルツブルク音楽祭の「ヤング・シンガーズ・プロジェクト」に参加した。

ミラン・シリャノフ (バリトン)

Milan Siljanov (Baritone)



バイエルン国立歌劇場で、『フィガロの結婚』のアントニオ、『ニュルンベルクのマイスター・ジנגー』の夜回り番、『死者の家から』のチェクノフ、『オテロ』のモンターノ、『ヘンゼルとグレーテル』のペーター、『魔笛』の弁者、『ラ・ボエーム』のショナール、『サロメ』のカッパドキア人等を演じている。ギルドホール音楽院でルドルフ・ピエルネに師事。2018年ミュンヘン国際コンクール声楽部門で第2位を受賞。2015年ウィグモア・ホール／コーン財団国際声楽コンクールで優勝。2014年スヘルター・ヘンボス国際声楽コンクールでは優勝と同時に聴衆賞を受賞した。これまでに、ヴァレリー・ゲルギエフ、キリル・ベトレンコ、アイヴァー・ボルトン、インゴ・メッツマッハー、シモーネ・ヤング等の指揮者と共演している。2018/19シーズンのハイライトは、ケンブリッジ音楽祭での『冬の旅』、オメル・メリア・ヴェルバー指揮ドレスデン・シュターツカペレとのハイドンの『ネルソン・ミサ』、シュトゥットガルトのフーゴ・ヴォルフ国際アカデミーでのカール・レーヴェ記念公演、オックスフォード・リダー・フェスティバルやウィグモア・ホールでのリサイタル等がある。